

事業所名 : グループホーム いこいの友 (Bユニット)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390900272		
法人名	特定非営利活動法人 ケアセンターいこい		
事業所名	グループホーム いこいの友 (Bユニット)		
所在地	岩手県一関市三ノ関仲田101		
自己評価作成日	平成30年10月29日	評価結果市町村受理日	平成31年1月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.mhl.w.go.jp/03/1/index.php?act=on_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&Ji_gyosyoCd=0390900272-00&Pr_efCd=03&Ver_si_onGf=022
----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通二丁目4番16号
訪問調査日	平成30年12月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は平成26年3月に開所し、同敷地内に同法人のデイサービスや住宅型有料老人ホームがあり、行事や慰問などがあつた際には合同で行うこともあります。また、同敷地内駐車場を会場に法人主催の夏祭り(サマーフェスタ)を毎年行っており、地域の多くの方と交流を図っています。当施設では、職員が作成した献立を管理栄養士により週1回見直しを行い、旬の食材を取り入れ良好な栄養バランスの見た目にも色彩豊かな食事を提供し、栄養面から健康をサポートしております。頻りに岩手の郷土料理を作る機会を設け、思い出の味を堪能して頂いております。また、各自の心身の状態に合わせた対応を心がけ、調理・清掃・野菜の水やり・収穫などをすることで、楽しみながら自宅に居るのと同じように生活できるよう支援しております。天気の良い日には野菜・花の草取りや散歩を行い、頻りに近所のスーパーなどへ出かけ、地域の一員として、いきいきと生活できるよう支援しております。季節に応じて、お花見・紅葉・白鳥見学等ドライブへも多く出かけ、季節感を感じて楽しんで頂いております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは、一関駅東口に近ながらも、周辺には一般住宅やアパートの他、水田も広がる静かな環境の中、法人内のデイサービスセンター、有料老人ホームと隣接して設置している。法人全体として地域との連携や協力を重視した取組みを進め、関連施設と合同で開催するサマーフェスタには地域住民も多数参加し、地域行事として定着している。災害避難訓練では、地域の自主防災組織からの協力も得て実施している。利用者は、調理作業やプランターの野菜づくりを手伝うなど、利用者ができることを支援するケアが心掛けられている。また、近隣の道の駅などを利用した季節ごとのドライブなどの外出支援も積極的に取り組まれている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

平成 30 年度

事業所名 : グループホーム いこいの友 (Bユニット)

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営規定、社是を玄関、事務室へ掲示し、いつでも確認できるようにしている。また、職員会議にて、確認・共有する機会を設けている。社是については、毎朝夕と唱和を実施し、意識統一を図っている。	法人社是の「信頼、親身、進取」を毎日朝夕のミーティングで唱和しており、具体的な「運営理念」「サービス理念」を玄関等に掲示し、職員会議の中の話合いなどで意識共有を図っている。前年度の反省を踏まえて、毎年度運営目標を定めて業務を進めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年2回避難訓練をしており、区長さん、民生委員さん、自主防災の方々に協力頂き行っている。また、毎年、法人主催のサマーフェスタを開催しており、地域の多くの方々に参加を頂き、入居者様と一緒に交流が図れるようにしている。	町内会に加入し、清掃活動等に参加している。当該敷地内で法人全体で開催されるサマーフェスタは、地域住民にも周知されて、毎年約400人が集まる地域行事として定着し、交流機会ともなっている。学童や慰問ボランティア等とは、デイサービス利用者と一緒に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議への参加を通じて、また、避難訓練等への参加を通じて直接触れ合っただき、理解を深めて頂けるよう働きかけを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に一回のペースで行っており、入居者状況、ホームでの行事等を話しております。そこでの意見や要望を反映し、サービス向上に活かしています。	委員として地域地区長と民生委員が参画するほか、行政担当者や家族代表が委員となっている。災害時の避難対策等がよく話題となるほか、交通事故防止のため、ホーム付近の十字路へのカーブミラー設置を警察に要望している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の構成員に、行政の方の参加をして頂いており、報告、助言や意見交換等を行っている。	運営推進会議に市から毎回参加しているほか、介護保険や生活保護の関連業務などで行政とは日常的な連携が図られている。市が主催する介護保険や感染症等に係る会議や研修会には職員が参加している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関等施錠はしていません。夜間は防犯の為に夜21時以降は施錠し、警備を開始します。職員の勉強会として、職員会議で認知症の理解、身体拘束に対しての知識を周知させてます。また、外部研修に参加して頂き、学んできたことを職員会議で話して頂いている。	運営推進会議を活用し、身体拘束対策委員会を設置している。玄関の施錠は、夜間帯のみとしている。ベッド下のセンサーマットは家族の了解を得て3人が使用している。スピーチロックや不適切な声掛けについては、ミーティング等で注意喚起を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新規採用職員については、法人全体の新人勉強会へ参加、また、職員会議内で勉強会を開催し、周知する努力をしている。各職員がケア方法について声掛け・相談を行っており、また、ストレス等の軽減防止に努め、虐待につながらないように努力している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護等の必要な方は、今現在はいない。勉強会を開催し、学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に準備物、生活の流れ、施設等の説明を行い、入居についての不安軽減に努めている。契約時に契約書・重要事項説明を行い、質問等があれば説明し、理解を得ている。また、改定等があった際には、迅速に説明を行うよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にはご家族にも参加していただいております。日々のケアの中で、入居者より要望等があればご家族と連絡を取り合い、希望に添えるよう努めている。面会時等には、生活の様子を伝えると同時に、意見・要望の確認を行っている。	運営推進会議や毎月の通院同行の際に、家族から意見や要望を聞いている。具体的には「なるべく歩かせて」とか「太りすぎに注意して」などの声があり、利用者の状況を考慮しながら対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝夕のミーティングや職員会議にて意見・提案等について確認している。また、事業所単位の意見・提案等については、毎月開催されるリーダー会議時に協議されている。	毎日のミーティングや職員会議で意見が出され、避難口のスロープ化や利用者の口腔ケア体操の工夫などに繋げている。管理者との個人面談は年2回行われ、法人職員が加わる場合もあり、資格や研修の希望などが話し合われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	賞与前には各職員が自己評価し、管理者が評価した書類を本部事業所への提出をもって代表者への報告としている。また、資格取得等への啓蒙を行い、資格手当などの待遇を見直している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得の受験資格に該当する職員については、積極的に受験するよう啓蒙している。また、資格取得に対して、外部講師を依頼、勉強会を法人全体で行っている。内外の研修にも参加し、職員会議等に復命をしている。新人職員等は、半年間の育成計画を立て取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の定例会やブロック研修会に参加し、勉強会・情報交換等を行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に実態調査を行い、ご本人の思い・要望や不安等を傾聴、確認、説明を行い、不安軽減に配慮し、信頼関係が築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前事前調査時に、ご家族の要望や不安等を確認、説明を行うことで、不安軽減に努めている。また、気軽に相談等をしていただけるような関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	実態調査時や居宅ケアマネから得た情報、ご本人、ご家族からの要望等を踏まえ、支援方法を検討し提供している。また、職員間で要望・支援方法等の情報共有を図っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日課(掃除、洗濯たたみ、食器洗い・調理等)を職員と共に行っていただき、馴染みの関係、信頼のおける関係づくりに努めている。また、調理などについて、味付けや調理方法の助言等を頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人に対しての要望等を継続してご家族へ確認し、連絡等を密に協力をいただきながらよりよい支援が提供できるよう努めている。また、ご家族と気軽に相談等ができる関係づくりに努めている。ご家族に不安等があれば都度説明を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔馴染みの方の面会がある。近所の店での買い物、近所の散歩を行ったりしている。また、バスハイクにて地元近辺のドライブを行っている。	月1回の通院時を含め家族や知人の来所も多くある。訪問理容師は隔月に来て馴染みの関係となっているほか、家族と馴染みの美容院に出かける利用者もいる。盆や正月には家族と実家等に帰る利用者も多いが、最近は大半が日帰りとなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居室へ籠ることがないように声掛けを行い、共同スペースにて過ごして頂いている。入居者同士が関わりやすいよう座席の配慮をしている。また、日課作業・レク活動等を通じ、他者との馴染みの関係が構築できるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設(特別養護老人ホーム等)の情報提供、相談などを必要に応じて行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	サービス開始前には、実態調査を行い、要望や意向の把握を行っている。サービス開始後については、職員とコミュニケーションが図りやすいよう配慮し、日々のケアの中で意向、要望等の把握に努めている。困難な場合は、表情などを読み取り、ご本人の気持ちに寄り添えるよう努力している。	入居前の家庭訪問によって、思いや意向、出来ることなどを確認し、事業所生活の中で調理手伝い、居室やホールの清掃手伝いなどに繋げている。普段の言動や仕草などから思いを感じ取るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人・ご家族からの聞き取り、居宅ケアマネからの情報提供等により、生活歴やサービス利用歴等の確認を行っている。日々の会話の中で、生活歴等を確認もしている。また、生活用品等についても、使い慣れたものを使用していただけるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活歴をもとに、1日の過ごし方について、ご本人のリズムに合わせて対応できるよう努力している。また、毎日のミーティングにて日々の過ごし方、心身状態などの情報共有を図っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々のケアの中で状態等の把握に努め、ご本人、ご家族や職員からの要望や提案を都度話して頂いている。また、毎日のミーティング、毎月の職員会議等でも意見や気付きを提案して頂き、現状を加味しながら介護計画に反映している。	担当者会議は、家族、看護師、計画作成担当で構成され、趣味の洋裁を継続、家族と連携等の目標を設定している。短期目標の設定期間を3か月又は6か月として見直している。モニタリングはケアチェック表を活用し、3か月に1回職員全体で行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録については業務日誌等に記録し、気づきや工夫、変化については、申し送りノートへ記入し職員全員が確認するようにしており、職員間での共有ができるよう努めている。ミーティング、職員会議時にも共有し、情報をもとに介護計画へ反映、見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じて、他施設間、医療関係との連携を図り、対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	当施設駐車場(デイ・有料ホーム・グループホーム)を会場とし、法人主催の夏祭りを開催している。地域の多くの方々に参加して頂き、楽しみながら交流を図っている。慰問(三味線、踊り、寸劇)などの依頼も行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所者様は入所前のかかりつけ医を継続して受診している方もいるが、以前のかかりつけ医から遠くなり通院が大変になる方は、施設の協力医に変更した方もいる。現在協力医に訪問診療も行っていただき、通院が困難な方を診て頂いている。	入居前からのかかりつけ医継続と事業所協力医の受診とがほぼ半数ずつとなっている。通院は家族送迎を基本とし、その際に職員との面談機会を持つようにしている。協力医による訪問診療を2名が利用しているほか、皮膚科の訪問診療の利用も多くなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員が常勤で配属されており、薬の管理、通院管理、状態管理等を行っている。日々のケアの中で、状態変化等があれば看護職と相談・連携が図れており、通院必要などのアドバイスも頂いている。法人全体でのバックアップ体制も整えている。必要に応じて訪問看護も検討する。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には入院時情報提供書を作成し、情報提供を行っている。入院中の際も医療相談員との情報交換を行い、状況等を把握している。退院時については、医療機関と連携を図り、スムーズに退院が出来るよう協力して頂いている。また、必要な情報提供を頂いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、重度化、終末期についてのお話はしており、医療的ケアが必要になった場合は、看護師を中心にかけつけ医、家族と連携を取るようになっている。また、必要であれば、訪問診療、訪問看護を検討していく。ホームでの暮らしが難しくなってきた場合は、ご家族様の要望等を確認しながら他施設の情報提供、申し込みなどの説明を行っている。	入居の際に重度化や終末期対応について、説明し、緊急時には救急搬送の対応が行われている。看取り介護の取組みはまだ行われていないが、今後は重度化や看取り介護に向けた具体的な取組みが必要であると認識を深めている。	重度化、医療的ケアの必要な利用者の増加が見込まれ、一方、訪問診療や看護師の確保等の看取り介護実施の環境も整備されつつある。法人全体での取組み等との整合性を図りつつ、重度化や看取り介護について、具体的な取組みが進められるよう期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成している。職員会議時に勉強会の機会を設けており、確認している。看護師にアドバイスなども頂いている。定期的に救命救急隊員を講師に、法人全体で救命救急講習会も開催している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年2回実施しており、1回は夜間想定避難訓練を行っている。夜間想定避難訓練では、緊急連絡網を活用し職員以外に自主防災の方にも連絡し近隣の協力を頂くようにしている。また、訓練以外でも台風や大雨等災害が発生しやすい場合にも自主防災の方に連絡し、何かあった場合には協力を頂けるよう事前に連絡をしている。	年2回の避難訓練のうち、夜間想定訓練では地域の防災隊の協力を得、1回は隣接するデイサービス、有料老人ホームと一緒に実施している。市ハザードマップでは土砂と洪水の対象地であり、避難先は近くの高台となっている。食料、燃料を備蓄し、ソーラー発電も備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉掛け、接し方は、不適切な言動、行動にならないよう職員間で注意喚起をしている。また、職員会議で勉強会を開催し、常に敬う心を忘れず、尊厳やプライバシーを損ねない介護をしていくようにしている。	トイレ誘導は、時間を見て全体に呼掛けし、個別的には羞恥心に配慮した声掛けや、失敗した際には周囲に判らないように配慮して対応している。馴れ合いによる言葉の乱れ、スピーチロックについても、その場で注意したり、職員会議で話し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が気軽に気持ちを表現できるような雰囲気作りや関係作りに努めている。買い物、ドライブや祭り等で嗜好品等を購入する際には、ご本人に選んで頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人との会話の中で、その日の気分や希望を聞き取り、希望に合わせて対応し、自分のペースにて過ごしていただけるよう配慮している。余暇活動の提供もするが、ご本人の希望に合わせて対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に床屋さんに来て頂いている。化粧品等を使用する方には化粧品の購入支援、ご本人の気分に合わせて洋服を選ぶよう支援している。また、就寝時には、パジャマへの着替え支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の手伝いとして、野菜の下準備や盛り付けを職員と一緒に、片づけも職員と一緒に茶碗拭きやテーブル拭きを行っています。食事前に口腔体操、季節の歌を歌い、食事前の嚥下運動を行っています。	献立は、法人内グループホームの職員が順番に作成し、調理も職員が行っている。利用者はその希望に沿って、野菜の下処理やプランターを活用した食材となる野菜栽培等を手伝っている。道の駅への外出ドライブでは、外食を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の指導の下、糖尿病の方、塩分減量の方、体重調整の方等、個々に合わせた食事のアドバイスを頂いています。また、水分不足にならないよう、三食以外にも10時、15時にお茶をだし水分不足にならないようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、職員が見守りしながら歯磨きをして頂いている。職員が口腔内を確認し、磨き残しがある際は、再度の磨き直し、職員介助での磨き直し、口腔スポンジでの磨き直しを行い、必要な方には舌磨きもして頂いている。入れ歯は本人に洗っていただき、洗浄液に入れてホームで保管している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表をつけており、個人個人の排泄時間を把握している。また、時間が空いた場合は声がけをしトイレ誘導を促がしている。汚染時は羞恥心の配慮を心がけパットやパンツの交換を一緒に行っている。	排泄チェック表により、できる限りトイレで用を足す支援を行っている。夜間のオムツ使用が2棟で5人、布パンツ使用が6人、他はリハビリパンツ使用である。夜間のポータブルトイレ使用者は5人いる。排泄の自立を目標としているが、失禁する場合は少し増加傾向にある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	管理栄養士の指導のもと、野菜を多く取り入れた献立を作成し提供している。朝食には毎日乳製品をお出しし、午後のお茶にはごぼう茶を飲んで頂き腸内環境を整えるようにしてます。レクリエーションでは体操等で身体を動かして頂くようにしている。頑固な便秘の方は、主治医に相談し、下剤等での調整も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は週2回となっているが、通院や体調不良の方には曜日を変更して対応している。また、入浴したくないと言う方には無理には誘わず、時間を置きながらタイミングを見てお誘いしている。	入浴は最低でも週2回としているほか、足湯も楽しめるようにしている。特殊浴槽の利用者は2棟で3人である。現在は同性介助希望者はいない。入浴の工夫として、ゆず湯やしょうぶ湯の機会を設けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は身体状況に合わせて休んで頂いたりしている。気持ちよく夜間眠れるよう、パジャマに着替えていただき、居室内の室温、照明、音等一人一人に合わせた環境作りをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護職員が中心となり、1人1人の処方内容を確認している。変更があった時は、朝礼、申し送りノートを活用し、副作用、用法を全職員が把握できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除、洗濯たみ、炊事等を行って頂いている。プランターに野菜や花を植えており、草むしり、水やり、野菜の収穫なども行って頂いている。毎日余暇活動も行っており、他者との交流を通じ、楽しみや気分転換となるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	1週間に2回買い物の日があり、何名か声を掛け一緒に出掛けております。その他にも帰宅願望が強い方には一緒に外に出てお話ししながら歩いている。天気の良い日には、外に散歩へでかけたり、季節に応じて、全員でドライブをし、外食などを楽しめる機会を設けている。	事業所周辺の散歩に職員が付き添うことが多いほか、毎週の買い物では大型店や近所のスーパーに出かけている。お花見や紅葉狩り、白鳥見物などの季節ごとのドライブを兼ねた外出機会を設けて、その際には、道の駅に寄って外食も楽しまれている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の了承を得て、現金(小額)を持っている方もいる。現金管理が出来ない方については、施設の個別小口台帳にて管理を行っており、ドライブや夏祭り等で嗜好品を購入した際には、個別に支払っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて、ご家族への連絡対応を行っている。また、携帯電話を所持している方もおり、ご家族の了承のもと、自由に出かけて頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	他者との共同生活を考えるうえで、臭いや、音、温度等環境面を考え、共用空間は自然の光を取り入れ、窓を開け空気の流れを毎日おこなっている。季節感が感じられるよう、食事では季節の食材を取り入れ、レクリエーションでは季節に合った壁飾りを皆さんで制作している。	玄関とつながるホール兼食堂は明るく広い空間となっており、利用者は多くの時間を過ごしている。壁面には利用者が作成した季節感あふれる作品や行事での写真などが賑やかに飾られており温かい雰囲気となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	随所にソファを配置しており、自由にくつろげるようにしている。共同スペースのテーブル座席については、気の合う方との配置に配慮している。A棟B棟自由に行き来し、自分の好きな場所でくつろげるような環境づくりを心がけてます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に自宅から馴染みの物を持ってきていただいている。居室内も本人の好きな物を飾って頂き、ご家族の写真や、自分で塗った塗り絵を飾ったりされている。	居室には、ベッドや加湿器、クローゼット、エアコンが備え付けとなっている。利用者はテレビや本人と家族の写真、手づくり作品などを持ち込んでおり、居心地の良い居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差をなくした作りになっており、廊下や、トイレ内、浴室に手すりを設けております。本人が自由に歩き居室やトイレがわかるよう目印をつけてます。		